令和４年度　事業報告書

（自令和４年４月１日～至令和５年３月３１日）

公益財団法人 全国学校農場協会

令和４年度　事業報告

〈概　　要〉

コロナ禍に向き合っての生活も３年間を経過した。そろそろ収束の兆しが見えるかと期待して迎えた令和４事業年度であったが、コロナ感染の状況は依然変わらず、通年の計画通りの事業・活動を目指したものの、その目的を十分に果たす事ができるほどコロナの影響は軽微ではなかったことを痛感した１年であった。

Ⅰ、農業教育に関する各種事業活動の実践報告

１、農業教育（農業技術）の発展と振興を図る事業・・(公１事業)

１）教育行政・農政・学術・学際的講演及び演習による農業教育を推進する事業

※本事業は原則一般公開：内容等の詳細は当協会ホームページで告知

（１）講演事業の実施

農業教育に携わる教職員の資質の向上は基より、広く国民に農業及び農業教育の重要性と理解の深化を図るため、最新の農業技術や研究の成果、農業現場の動向等を内容とした以下の講演事業を実施した。

『全国高等学校農場協会結成 70 周年記念講演』

演　　題：「日本農業の魅力と課題～消費者の食生活を守る農業者の育成～」

講　　師：　作　家　　森　　久美子　先生

『全国大会講演』・・・全国高等学校農場協会と共催

講演・講義：「当面する初等中等教育の課題」

講　　師：　　文部科学省初等中等教育局

参事官（高等学校担当）　田中　　義恭　先生

『農業教育研究協議会講演』

講演 1、「高等学校教育の現状と課題について」

講　　師：　　文部科学省 大臣官房

文部科学戦略官　　水田　　巧　先生

講演 2、「新規就農対策について」

講　　師：　　農林水産省 経営局

就農・女性課長　　尾室　　幸子　先生

講演３、「学生が輝く総合農学を推進する大学教育」

－フイールドを科学する本学の教育と研究－

講　　師：　　東京農業大学

学　　長　　江口　　文陽　先生

『各支部大会講演』・・・全国高等学校農場協会各支部と共催

《東北支部》

演　　題：「農業の可能性は無限大～正解なんてない～」

講　師　株式会社　　鈴生　　代表取締役　　社長　　鈴木　貴博

《関東支部》

演　　題：「山梨県の林業における課題と県立農林大学校森林学科の開講」

講　師　専門学校山梨県立農林大学校　　専任講師　　青山　将英

《北信越支部》

演　　題：「発酵くらし〈まざる、つながる、うまれる〉～創業 1548 年
摂田屋の酒造「吉乃川」の取り組み～

講　師　ミライ発酵本舗株式会社　マネージャー　　斎藤　　篤

《近東支部》

演　　題：「新しいものを生み出す育種の世界」

講　師　近畿大学付属農場　　教　授　　佐藤　明彦

《中国支部》

演　　題：「これからの農業高校に期待すること」

講　師　株式会社ハラダファーム本田　　代表取締役　本田　正樹

演　　題：「農林水産業を取り巻く状況と農業高校に期待するもの」

講　師　農林水産省中国四国農政局
企画調整室長　　星川　泰輝

《四国支部》

演　　題：「たくさんの可能性を発見できる神山町」

講　師　　神山町長　　後藤　正和

全国８支部の全てにおいて、支部大会の中で「講演会」を計画していたが、コロナ禍における感染拡大防止の観点から北海道支部と九州支部の２支部が開催中止をせざるを得なくなり、「講演会」を実施することが出来なかった。実施した６支部は上記の通りである。

（２）褒賞事業の実施

ⅰ)農業教育功労者表彰

永年に亘って農業教育に携わり、農業教育の振興と普及・充実に貢献し、功績のあった者を表彰規定にに基づいて表彰し、農業教育の更なる発展を期する事を目的とする事業である。

【令和４年度農業教育功労者審査結果】・・(数値は対象人数)

支部	表彰候補者	合格者	不合格者	審議対象者
北 海 道	8	6	0	保留２⇒感謝状２
東　　北	25	25	0	保留１⇒合格１
関　　東	37	34	1	保留２⇒再任用後
北 信 越	13	12	0	保留１⇒感謝状１

近　　東	24	23	0	保留１⇒合格１
中　　国	22	21	0	保留１⇒再任用後
四　　国	15	15	0	0
九　　州	33	32	1	0
合計	177 名	169 名	２名	８名（申告漏れ１名）

o 令和４年度農業教育功労者審査委員会

・開催日時：令和４年６月 16 日（金）9 時 00 分～16 時 30 分

・審査委員：橋本　倉司　　金子　淳一　　庭野　省三　　鈴木　　隆
大木　高之　　一ノ瀬　淳　　矢田部正弘　　戸代谷泰一
山口　明弘　　友光　俊一　　高橋　元幸　　須賀　秀次
日置　司明

ⅱ)和牛甲子園入賞校の表彰

農業の特定の分野・領域で日常の継続的な実践活動を通して、優秀な成績や成果を挙げた団体やグループを表彰し、その活動を支援・奨励するものである。

この度は、ＪＡ全国農業協同連合会と連携し、第６回和牛甲子園を開催し、入賞校には表彰状と記念品を贈呈して今後の肥育牛の生産に期待と奨励を支援した。その概要と審査結果は以下の通りである。

①開催期日：令和５年１月 19 日(木)・20 日（金）

②開催会場：第１日目　品川グランドホール　　⇒体験発表・褒賞授与式
第２日目　東京都中央卸市場食肉市場⇒枝肉共励会・セリ

③出場県・校数：出場道府県数　23 道府県　　出場校　40　校

④出品頭数：　57　頭

⑤審査結果：受賞部門・受賞学校名

受賞部門	受賞学校名
〈総合評価部門〉	
・最優秀賞	岐阜県立大垣養老高等学校
〈取組評価部門〉	
・最優秀賞	鹿児島県立市来農芸高等学校
・優秀賞	北海道倶知安農業高等学校
優秀賞	広島県立西条農業高等学校
・優良賞	栃木県立栃木農業高等学校
優良賞	神奈川県立中央農業高等学校
優良賞	京都府立農芸高等学校
・審査委員特別賞	鹿児島県立鹿屋農業高等学校
・高校牛児特別賞	愛知県立渥美農業高等学校
〈枝肉評価部門〉	
・最優秀賞	栃木県立矢板高等学校

・優秀賞　　岐阜県立大垣養老高等学校
優秀賞　　鹿児島県立加世田常潤高等学校
・優良賞　　福島県立磐城農業高等学校
優良賞　　岐阜県立飛騨高山高等学校
優良賞　　島根県立出雲農林高等学校
・審査委員特別賞　　愛知県立渥美農業高等学校

２）農業教育の質的向上を図る調査・研究的事業の推進

農業教員の調査研究活動や研修活動を奨励・推進し、農業教育の質的向上を図ると共に指導方法を改善し、指導成果を高める実際的な指導力を身に付ける事ができる事業を推進する。

『全国大会研究発表・研究協議』

発　表　１、「科目“農業情報処理”の取り組みと
プログラミング学習の取り組みについて」
茨城県立水戸農業高等学校　　教諭　　今井　芳彦

発　表　２、「ICT 技術及び機器における各校の導入
及び活用状況について」
埼玉県立いずみ高等学校　　教諭　　池田　裕明

『各支部大会研究発表・研究協議』

全国８支部全てにおいて、各支部で設定した 3～8 テーマについて単年度又は数年度に亘って調査・研究を行い、その成果を支部大会で設定された分科会で発表すると共に研究協議会のテーマやデータとして供してきた。

令和４年度各支部の研究発表・研究協議は以下の通りだあった。

《北海道支部》

研究主題：国際化と情報化に対応した農業教育の推進
～地域農業と融合を図った学校農場づくリ～

第１分科会　　生産技術・経営分科会

「力強く持続可能な農業の発展を担う人材育成のための農業教育の在り方について」～農業の担い手を育成するため地域農業と
融合した学校農場はいかにあるべきか～
北海道新十津川農業高等学校　　教諭　　保木本敬一

第２分科会　　環境技術・創造分科会

「未来を見据えた環境系学科の教育活動が果す役割について
～国際化に対応する環境系学科における学校農場はいかにあるべきか～」
北海道旭川農業高等学校　　教諭　　大村　竜二

第３分科会　　資源活用・ﾋｭｰﾏﾝｻｰﾋﾞｽ分科会

「生活科学科・ﾋｭｰﾏﾝｻｰﾋﾞｽ系、資源活用、食品系学科、の当面する課題と特色ある教育について～地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与する

学校農場は以下にあるべきか～」

北海道岩見沢農業高等学校　　教諭　　松田　優志

第４分科会　　農業クラブ指導分科会

「グローバル化への進展と地域創生に寄与できる、科学的視点を踏まえた農業クラブ活動指導はどうあるべきか～自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む学校農業クラブ活動の実践～」

北海道美幌高等学校　　教諭　　小野　隆裕

《東北支部》

主テーマ：「生徒の『生きる力』を育む活力ある農業教育の創造と実践」

第１分科会　　生産経営系・環境創造系

放課後子ども教室での農業体験学習（上山明新館）や教科指導の展開と評価方法（柴波総合）についての発表後、深い学びを促す方法などについて協議した。

山形県立上山明新館高等学校　　教諭　　阿部　正彦

岩手県立紫波総合高等学校　　教諭　　小山　　卓

第２分科会　　資源活用系

交流広場「と・ら・ま・い」（石巻北）や湯の花を活用したカラス忌避キット（大曲農業）についての発表後、地域資源の活用や地域連携の手段について協議した。

宮城県立石巻北高等学校　　教諭　　小野　厚夫

秋田県立大曲農業高等学校　　教諭　　佐々木雄生

第３分科会　　学校経営系

ファームナビゲーター（三本木農業）やコンニャクの商品開発（白川実業）についての発表後、農場を活用した探究的な活動について協議した。

青森県立三本木農業高等学校・三本木農業恵拓高等学校　　教諭　　佐々木　篤

福島県立白川実業高等学校　　教諭　　早田　光宏

《関東支部》

研究主題（協議テーマ）

①新学習指導要領に対応した教育課程の工夫や取組

②地域社会の課題解決に対する特色ある取組

③スマート農業などの新しい時代に対応した農業教育

④地域資源を活用した農業教育の実践

第１分科会　　生産経営系分科会

「在来水稲品種の復活と水稲農家所得向上を目指して」

～「栃木愛国３号」契約栽培検証プロジェクト～

栃木県立小山北櫻高等学校　　教諭　　山口　恭史

「ケヤキプロジェクト活動実践報告」

東京都立農業高等学校　　主任教諭　　中里　友紀

第２分科会　　環境創造系分科会

「群馬県の環境系学科・コースにおける実践的取り組み」

群馬県立吾妻中央高等学校　　教諭　　小池　英吾

「静岡県の環境系学科における地域と連携した農業教育の実践」

静岡県立岩田農業高等学校　　教諭　　深井　慎一

第３分科会　　資源活用系分科会

「埼玉県における高大連携及び地域連携について

～各校の取り組み紹介と成果・課題について～」

埼玉県立川越総合高等学校　　教諭　　中山　伸一

「農業関連産業で実習を行い生徒の進路意識を高める」

茨木県立水戸農業高等学校　　教諭　　今井　芳彦

第４分科会　　学校経営系分科会

「地域資源を活用した農業教育の実践～市原市の観光資源を

活用した緑地管理コースの取り組み～」

千葉県立市原高等学校　　教諭　　永島　達也

《北信越支部》

生産経営系分科会

「SDGs とグローバル GAP 継続認証へ向けての実践教育」

長野県富士見高等学校　　教諭　　寺沢　泰幸

環境創造系分科会

「専門分野を探究する農業教育を目指して

新潟県立加茂農林高等学校　　教諭　　山田　隆一

資源活用系分科会

「HACCP に基づく衛生管理」における実践的教育

石川県立翠星高等学校　　教諭　　西前　辰郎

《近東支部》

第１分科会

「栽培・飼育及び流通系科目における地域と連携を生かした

効果的な取組とその評価について」

滋賀県立湖南農業高等学校　　教諭　　東　　賀奈子

大阪府立農芸高等学校　　教諭　　河合　弘明

奈良県立山辺高等学校　　教諭　　中井　政治

第２分科会

「食品加工系科目における地域との連携を生かした

効果的な取組とその評価について」

岐阜県立岐阜農林高等学校　　教諭　　青木　祐太
三重県立四日市農芸高等学校　　教諭　　新見　弘毅
和歌山県立紀北農芸高等学校　　教諭　　谷　　由葵

第３分科会
「環境・生活系科目における地域との連携を生かした
効果的な取組とその評価について」
京都府立北桑田高等学校　　教諭　　稲村　玲士
愛知県立新城有教館高等学校　　教諭　　矢吹　尚美
兵庫県立上郡高等学校　　教諭　　孝橋　征治

第４分科会
「地域に開かれた教育課程の実践とその推進について」
奈良県立御所実業高等学校　　教諭　　小松原　周
滋賀県立長浜農業高等学校　　教諭　　松井仙一郎
大阪府立貝塚高等学校　　教諭　　黒木　勇彌

第５分科会
「生徒が自ら学び、協働的に取り組む教育の実践について」
岐阜県立恵那農業高等学校　　教諭　　丹羽　　健
三重県立伊賀白鴎高等学校　　教諭　　大森　亘子

第６分科会
「学校農業クラブ活動における地域と連携した取組について」
兵庫県立農業高等学校　　教諭　　玉田　将基
京都府立農芸高等学校　　教諭　　新田沙登可
愛知県立稲沢高等学校　　教諭　　持地　信雄

《中国支部》

第１分科会　　食料供給・ヒューマンサービス
「地域の食料供給・ヒューマンサービス分野に障害に亘って
探究を深める未来の創り手の育成を目指して」
岡山県立瀬戸南高等学校　　教諭　　野上　広志
「地域の食料供給・ヒューマンサービス分野に障害に亘って
探究を深める未来の創り手の育成を目指して」
山口県立萩高等学校奈古分校　　教諭　　森山　直樹

第２分科会　　環境創造・素材生産・バイオテクノロジー
「地域の環境創造・素材生産・バイオテクノロジー分野に障害に亘って
探究を深める未来の創り手の育成を目指してー鳥取湖陵高等学校農業学科での取り組みー」
鳥取県立鳥取湖陵高等学校　　教諭　　都宮理奈子
「サツマイモの無病苗による耕作放棄地の解消と６次化による地域振興」

島根県立松江農林高等学校　　教諭　　曽田　　稔

第３分科会　　農場運営・開催県設定テ―マ

「障害に亘って探究を深める未来の創り手を

育成する農場運営を目指して」

島根県立出雲農林高騰学校　　教諭　　吉川　　樹

「地域資源の活用と探究活動の実施状況について」

広島県立油木高等学校　　教諭　　森藤　　太

《四国支部》

第１分科会

「HACCP を活用した農業教育」

香川県立笠田高等学校　　教諭　　西田　　仁

第２分科会

「総合学科における新たな挑戦」

愛媛県立川之石高等学校　　教諭　　木下　和久

第３分科会

「農業科における ICT 活用に関する研究～IoP プロジェクト

におけるデータ収集・分析～」

高知県立高知農業高等学校　　教諭　　岩貞　篤芝

第４分科会

「森林資源を活用したキャリア教育への取組～林業関連

産業の担い手の育成～」

徳島県立那賀高等学校　　教諭　　浦　　裕明

《九州支部》

共通テーマ：「21 世紀を生き抜く力を育み、進化し続ける農業教育の創造」

①グローカルな人材育成を目指した農業教育の創造

②持続可能な日本農業の成長を見据えた農業教育の展開

第１分科会　　生産経営系分科会

「農業生産と栽培環境の関係について思考を深めていく生徒を育てる学習指導」

～大学と連携をしたスマート農業の活用による

生育環境データの読み取りと振り返りの活動を通して～

福島県立糸島農業高等学校　　教諭　　牛島　正典

「本校の畜産の取組」

佐賀県立唐津南高等学校　　教諭　　松隈　攝子

第２分科会　　環境創造系分科会

「本校の造園に関する取り組み」

鹿児島県立鹿屋農業高等学校　　教諭　　熊埜御堂　宏一

「環境教育に於けるスマート林業の役割～林工バージョン～」

大分県立日田林工高等学校　　教諭　　野上　和仁

第３分科会　　資源活用系

「島原半島の伝統文化と農業教育」

長崎県立島原農業高等学校　　教諭　　大河内　幸代

「地域産業と連携した持続的な成長を担う職業人の育成」～ライフスキル科におけるＳＤＧｓの視点を取り入れた授業実践を通して～

沖縄県立八重山農林高等学校　　教諭　　渡口　誠士

第４分科会　　学校経営系分科会

「チーム熊本！持続可能な農業教育と人材育成（生徒・教職員）に向けた農場運営の在り方とは・・・」～運営資源の分析による農場運営の実践成果・課題～

熊本県立菊池農業高等学校　　教諭　　柿本　　剛

「時代の変化にに対応した農業教育の取組と教員の資質向上について」

宮崎県立宮崎農業高等学校　　教諭　　児玉　政光

『農業教育研究協議会研究発表並びに研究協議』

第１分科会　　生産経営系（飼育・栽培・機械情報）

「農業生産と栽培環境の関係について思考を深めていく生徒を育てる学習指導」
－大学と連携したスマート農業の活用による
栽培環境データ読み取りと振り返り活動を通して－

福岡県立糸島農業高等学校　　主幹教諭　　牛島　正典

「“主体的・対話的で深い学び”に対応した教科指導及び社会の
グローバル化に対応した農業教育、キャリア教育の推進」

山形県立上山明新館高等学校　　教諭　　阿部　正彦

「総合学科における新たな挑戦」

愛媛県立川之石高等学校　　教諭　　木下　和久

第２分科会　　環境創造系（森林・農業土木・造園）

「未来を見据えた環境系学科の教育活動が果す役割について」
～国際化に対応する環境系学科における学校農場は以下にあるべきか～

北海道旭川農業高等学校　　教諭　　大村　竜二

「地域社会の課題解決に関する特色のある取組

群馬県立吾妻中央高等学校　　教諭　　小池　英吾

第３分科会　　資源活用系（食品・生活・地域交流）

「“HACCP に基づく衛生管理”における実践的教育」

石川県立翠星高等学校　　教諭　　西前　辰郎

第４分科会　　（農場運営・農業経営者育成・学校特色化）

「生涯にわたって探究を深める未来の創り手を育成する農場運営を目指して」

島根県立出雲農林高等学校　　教諭　　吉川　　樹

「JGAP 認証に向けた取組と新たなスマート農業の取組」

岐阜県立恵那農業高等学校　　教諭　　丹羽　　健

『本部研究局教育課程専門部会調査研究報告』

当協会の研究局では、農業の分野領域を４部会系列（令和４年度報告までは１０専門部会）に集約し、部会系列でそれぞれテーマを設定して調査・研究活動を行っている。各部会系列に所属する農業教員はそれぞれの各部会系列を専門とする農業教員４名で構成されしており、単年度又は数年度に亘って調査・研究を行っている。

その研究成果は研究集録に集約されて毎年度末に発刊される。どうか参考に供して頂きたい。尚、令和４年度は研究集録 60 号である。

〔飼育部会〕

・畜産(動物におけるスマート農業～現状と課題

群馬県立勢多農林高等学校　教諭　松島　　仁
東京都立瑞穂農芸高等学校　教諭　伊勢　博祥
千葉県立旭農業高等学校　　教諭　高澤　春平
神奈川県立中央農業高等学校　教諭　後藤　隼人

〔機械情報部会〕

・各学校で使用しているスマート農業の導入に関する調査について

千葉県立下総高等学校　教諭　荒木田　光生
埼玉県立杉戸農業高等学校　教諭　金子　ゆき
神奈川県立吉田島高等学校　教諭　石塚　洋平
群馬県立勢多農林高等学校　教諭　深代　郷史

〔森林部会〕

・森林・林業科目設定校の販売物調査から生まれる交流を願って

群馬県立利根実業高等学校　教諭　青木栄次郎
埼玉県立秩父農工科学高等学校　教諭　井上　陽広
千葉県立君津青葉高等学校　教諭　伊藤　雄功
山梨県立農林高等学校　教諭　野中　亮太

〔造園部会〕

・平成 30 年度告示による新学習指導要領実施に向けた造園関連科目の実施について

山梨県立農林高等学校　教諭　塩野　哲男
群馬県立藤岡北高等学校　教諭　田中　雅紀
栃木県立栃木農業高等学校　教諭　篠崎　亮介
静岡県立田方農業高等学校　教諭　渡邊　幸伸

〔食品部会〕

・食品系「総合実習」における観点別評価に関する研究

茨城県立真壁高等学校　教諭　稲垣　夏子
東京都立園芸高等学校　教諭　斉藤　道生
神奈川県立平塚農商高等学校　教諭　野川　圭太
千葉県立流山高等学校　教諭　宮田　拓真

〔生活部会〕

・教科「農業」における「農業経営」「食品流通」「地域資源活用」の取り組みに関する調査研究

東京都立青梅総合高校　教諭　中村　洋介
千葉県立流山高等学校　教諭　吉田　純明
埼玉県立秩父農工科学高等学校　教諭　春田知恵美
茨城県立水戸農業高等学校　教諭　今井　芳彦

〔地域交流部会〕

・食育活動を通じた地域交流活動の紹介

神奈川県立相原高等学校　教諭　小泉　幸太
東京都立農芸高等学校　教諭　宮田　智恵
茨城県立水戸農業高等学校　教諭　照沼　功
千葉県立多古高等学校　教諭　伊藤　義泰

〔農場運営部会〕

・農場運営における問題点・課題について

埼玉県立川越総合高等学校　教諭　中山　伸一
群馬県立藤岡北高等学校　教諭　栗原　勇夫
静岡県立磐田農業高等学校　教諭　草川　昌輝
栃木県立真岡北陵高等学校　教諭　小林　正信

〔栽培系学科部会〕

・ICT 技術及び機器における各校の導入及び活用状況について

栃木県立矢板高等学校　教諭　林　権一
静岡県立磐田農業高等学校　教諭　望月　剛康
群馬県立伊勢崎興陽高等学校　教諭　松村　哲夫
埼玉県立いずみ高等学校　教諭　池田　裕明

〔学校特色化部会〕

・地域連携活動における問題点・課題について

静岡県立下田高等学校南伊豆分校　教諭　肥田　恒次
千葉県立多古高等学校　教諭　内藤　康明
東京都立農業高等学校　教諭　佐藤　武仁
栃木県真岡北陵高等学校　教諭　粕谷晴之輔

『本部研究局継続調査』

ｉ）令和４年度大学推薦入学に関する調査

全国４７都道府県375校の農業高校を対象に令和３年度に各校から推薦入学制度を利用して大学へ　入学した生徒の実態調査を実施した。

ⅱ）教育課程に関するアンケート調査

全国４７都道府県375校を対象に各校の設置学科、総合学科の系列数を調査、各設置学科及び設置系列での農業科目の履修状況の調査を行った。

ⅲ）「農業系高校における特色ある取組み」に関する調査

全国の農業系高校における特色ある取組や活動を調査し、その実態を資料として集約した。

以上、調査・研究事業の内容や結果の詳細は、令和４年度第60号研究集録に集約されているので参考また活用されたい。

３）学術及び科学技術の向上と推進を目的とする事業

（１）農業実験実習講習

本事業は当公益財団法人が全国の大学・研究機関等に依頼して、夏季休業中の5日間に亘って実施し、全て出席すれば修了証が授与される。

農業教育の質的向上と農業教育に携わる農業教員の実験実習技術並びにその指導技術の向上を図ることを目的として実施するものである。

令和４年度の開催は、以下の通りであった。

【各地区農業実験実習実施概要】

地区	科目	会場	場所	期　日
北海道	農業と環境	帯広畜産大学	北海道帯広市	8月 1日（月）～8月 5日（金
東　北	農業と環境	岩手大学	岩手県盛岡市	7月25日（月）～7月29日（金）
関　東	農業と環境	日本獣医生命科学大学	東京都武蔵野市	8月 1日(月)～8月 5日(金)
北信越	農業と環境	富山県立大学	富山県射水市	8月 8日(月)～8月12日(金)
近　東	農業と環境	三重大学	三重県津市	8月15日（月）～8月19日（金）
四　国	農業と環境	香川大学	香川県木田郡	8月15日(月)～8月19日(金)

【農業技術研修実施概要】

九　州	農業と情報	東海大学	熊本県熊本市	8月22日（月）～8月24日（水）

（２）免許法（実習助手単位）認定講習等の開講実施

本事業は、全国の農業関係高等学校に勤務する実習助手を対象として、それぞれが担当する分野・領域の技術力と指導力の向上を図り、農業実習助手としての資質を向上して実習教育全体のレベルアップを図ることを目的とした事業であり、実施の要望が極めて多い。

令和４年度においても開講実施する予定で酪農学園大学並びに東京農業大学の２大学に要請をして準備を進めていたのですが、コロナ感染の先行きの不透明観から今年度は中止とすることに決定した。

４）農業・環境・食料・健康教育など農業に関わる領域をテーマとするフォーラムや

シンポジウム等の事業の開催

「人と自然との共生」をメーンテーマとして、農業並びに農業教育の重要性・必要性の啓発と理解の深化を図るため、地域や一般の人々を対象としたフォーラムやシンポジウムを実施した。

（1）第９回農業女子フォーラム

テーマ：「持続可能な農業の実現」～はぐくもう未来の農業女子～

ⅰ、日　時：令和４年 12 月６日（火）

ⅱ、会　場：北海道北斗市総合文化センター・かなでーる

ⅲ、参加者：農業・食農を学ぶ高校生及び学生、一般・就農者、農業大学校生等

ⅳ、内　容：基調講演「育もう未来の農業女子」　　Ｉ,Ｋ

：実践発表　大野農業高等学校 食品化学科３年　Ｔ,Ａ

（2）実践総合農学会連携シンポジウム生徒発表出場

発表１、富山県立中央農業高等学校

「ﾄﾞｼﾞｮｳとｱｲｶﾞﾓﾛﾎﾞを活用したｱｸｱﾎﾟﾆｯｸｽ水稲栽培法の開発」

発表２、愛媛県立西條農業高等学校

大会テーマ「スマ－ト農業が切り開く未来の日本農業の姿と担い手」

５）広報活動として機関紙の発行と補助教材図書の刊行事業の推進

（１）機関新聞「公益財団法人全国学校農場協会新聞」の発行

当公益財団法人の事業や活動状況、全国の農業や農業教育に関する最新情報並びに生徒・教員の特色ある取組や活動等に関する情報を収集し、全ての会員は基より農業や農業教育へ携わる人々や研究機関、関係省庁、関係団体など広く人々へ配布した。

（２）研究集録の刊行

全国の農業関係高等学校を対象として教育内容や地域に特化した教育実践、圃場の整備、実験実習施設・設備等の教育環境並びに教育条件に関わる調査・研究の成果をまとめて研究協議会で発表した。

また、その発表要旨や支部大会、研究会・研修会で実施した内容や講演会の要旨、フォーラム、シンポジウムの内容、全国の各農業高校で推進している地域連携の取り組み等を事業年度末に集約して「研究集録 60 号」として刊行し、教育機関、研究機関・関係省庁等へ広く配布して農業教育の理解の深化と振興・普及の一助とした。

（３）科目「農業と環境」等実習教育の補助教材の研究開発と刊行

現在、農業科目「農業と環境」の補助教材として発行し、多くの学校で活用されている「農業学習ノート」“トウモロコシ”並びに“ダイコン”は極めて好評で活用・販路も順調に拡大をしている。今後もＰＲ活動を広く展開すると共に新たな作目に対応した補助教材の開発も検討して行きたいと考えている。

６）農村や地域の文化・伝統(文芸・芸術・芸能）の振興・普及を推進する事業

全国の農業高等学校に学ぶ生徒を対象に、自らが生活する地域の文化や習慣、歴史や伝統、芸術・芸能・民芸等へ興味や関心を持ち、それらを通して自分と地域との関わりを考え、地域愛や郷土愛を醸成するきっかけになることを期待して当事業を推進するものである。

本年度は、下記の 2 事業を実施したが、地域農業の課題となっている休耕田の有効活用の提言や農村であるからこそ観られるローカル色に輝く原風景。また、農薬を使わないで雑草防除に取り組み、植物の持つアレロパシーを利用して雑草を半減させた感動の体験を寄稿してくれるなど、いずれも素晴らしい応募作品で好評を博した事業であった。

（1）第 14 回全高農業関係高等学校エッセイコンテスト実施

◎最優秀賞　作品テーマ『環境にやさしい素材で農業の生産性向上を目指して』
　　生徒氏名：松口　歩佳　　大阪府立園芸高等学校

〇優秀賞　　作品テーマ『将来私が目指す未来へ』
　　生徒氏名：平井　碧彩　　東京都立農産高等学校

〇優秀賞　　作品テーマ『商品開発の難しさ 失敗することで学んだこと』
　　生徒氏名：吉田　美優　　長崎県立諫早農業高等学校

〇優秀賞　　作品テーマ『松川町の宝をいつまでも』
　　生徒氏名：大島 このみ　　長野県下伊那農業高等学校

o 佳　作　　作品テーマ『ひと鉢のアジサイから生まれた私の夢』
　　生徒氏名：真垣　勇輝　　神奈川県立平塚農商高等学校

o 佳　作　　作品テーマ『自給自足を目指して』
　　生徒氏名：佐藤　優衣　　大阪府立水都国際高等学校

〔審査委員会〕

・令和 4 年 12 月 14 日（水）　10:00～12:00

〔審査委員〕

・(公財）全国学校農場協会　　理事長　　日置　司明
・日本農民文学会　　会　長　　間山　三郎
・全国高等学校農場協会　　会　長　　韮塚　光信
・全国高等学校農場協会　　事務長　　須賀　秀次

（2）第 8 回全国農業関係高等学校 農業・農村フォトコンテストの実施

〈生徒の部〉

◎最優秀賞　作品テーマ『青　　春』
　　生徒氏名：伴　藍花　　京都府立農芸高等学校

〇優秀賞　　作品テーマ『愛を込めて捕殺を』
　　生徒氏名：神田　彩羽　　静岡県立田方農業高等学校

〇優秀賞　　作品テーマ『反　　射』
　　生徒氏名：伊藤　玲香　　静岡県立田方農業高等学校

o佳　作　　作品テーマ『かんぴょうむきを後輩へ』
　　生徒氏名：茨木　蒼太　　栃木県立宇都宮白楊高等学校
o佳　作　　作品テーマ『美野原の収穫～空から～』
　　生徒氏名：木村　悠星　　群馬県立吾妻中央高等学校
o佳　作　　作品テーマ『とったど～！！！』
　　生徒氏名：染川　結希　　静岡県立田方農業高等学校
o佳　作　　作品テーマ『農業高校生の日常』
　　生徒氏名：若月　彩希　　静岡県立田方農業高等学校

〈職員の部〉

◎最優秀賞　作品テーマ『お田植えＲＯＡＤ』
　　職員氏名：佐藤　明彦　　静岡県立田方農業高等学校
〇優秀賞　　作品テーマ『令和のはぜ掛け』
　　職員氏名：齊籐　勇樹　　福島県立岩瀬農業高等学校

〔審査委員会〕
・令和４年 12 月 14 日（水）13：00～15：00

〔審査委員〕

・（公財）全国学校農場協会	理事長	日置　司明
・棚　田　学　会	会　長	山路　永司
・全国高等学校農場協会	会　長	韮塚　光信
・棚田学会カメラマン	写真家	安井　一臣
・日本農民文学会	会　長	間山　三郎
・棚　田　学　会	理　事	花野　耕一
・全国高等学校農場協会	事務長	須賀　秀次

Ⅱ、会務事業の開催・実施

当公益財団法人全国学校農場協会は、定款に掲げる目的を達成するため令和４事業年度においては、下記の諸会務を開催・実施した。

１）組織運営会議
①定 時 評 議 員 会　：5 月 27 日、随　時
②理　　事　　会　：5 月 12 日、8 月 26 日、11 月 4 日、2 月 3 日
③監　事・会計監査会　：5 月 12 日、5 月 26 日、11 月 4 日、2 月 3 日
④総　務　局　会　議　：全国高等学校農場協会との合同会議・・随　時
※監事・会計監査会は、毎理事会当日の午前中に実施

２）活動・事業運営会議
①研究局教育課程専門部委員会・総　　会：5 月 24 日
②全国高等学校農場協会結成 70 周年記念式典・：6 月 2 日～6 月 3 日
　第 71 回 全 国 大 会 並びに 研 究 協 議 会（全高農主催）
③農 業 教 育 功 労 者 審 査 委　員 会：6 月 16 日

④第 59 回 農 業 教 育 研 究 協 議 会 ：11 月 30 日～12 月 1 日(公財主催)

⑤農業高等学校ｴｯｾｲｺﾝﾃｽﾄ審査会：12 月 14 日

⑥農業高等学校ﾌｫﾄｺﾝﾃｽﾄ審査会 ：12 月 14 日

Ⅲ、賃貸契約等に伴う収益事業の実施

当公益財団法人全国学校農場協会は、下記の通り所有ビルの一階部分を賃貸事業として活用、また、当協会の社標マーク使用認可による収益事業を実施した。

１）家屋賃貸契約による収益事業

当公益財団法人全国学校農場協会は、所有ビル「農場協会々館」の一階部分 2 フロアーを下記 2 店舗に契約賃貸し家賃収入を得た。

・店　　舗（A）：「や　わ　ら　ぎ」

・店　　舗（B）：「Ｗｈｉｔｅ　　ｓｐａｃａ　　Ｌａｂｏ」

２）当農場協会の社標マ―クの使用料収入契約事業

当公益財団法人全国学校農場協会は、当農場協会の社標マークを、農場協会事業部「新和商事」が販売する実習着の左胸ポケットに刺繍装着して使用することを協会組織として承認し、その使用料として販売実習着一着につき 30 円の拠出金契約で

++90　　実施している事業である。

以上、令和事業年度に実施・開催した事業・活動について記録として保管することを前提にまとめた。当公益財団法人全国学校農場協会は設立以来、我が国の農業教育の振興と専門教育としての農業教育の内容水準の維持向上を図るため、教育内容や指導方法の改善、教員の研究・研修活動の奨励や支援等の事業を計画し実施してきた。しかしここ 3 年に及ぶコロナ感染波及の影響は大きく、事業・活動・会務運営等の全てにおいて計画通りに進めることは叶わなかったが、年度後半にコロナ感染傾向減少の情報を受けて実施に踏み切った事業・活動等では、それなりの成果と目標の達成を果たすことが出来たと評価をしているところである。

次期事業年度においては、本事業年度の状況を踏まえて特に調査・研究活動並びに会員の最新技術の研修に関わる事業等を考慮して計画を進めたい。

以　　上

令和５年 6 月 27 日